

自社製品に挑む

愛知県で自動車部品の製造を主力とする中小企業が相次ぎ自社製品に挑戦している。自動車運転や電動化など自動車業界の大変革に対応した動きで、新たな収益源を育てて経営リスクを分散する狙いだ。半導体不足による自動車メーカーの減産などコロナ禍による外部環境の変化も加わる中、各社は自社製品の開発に力を注ぎ、持続的成長を目指す。

（名古屋・永原尚大）

自動車産業の裾野が広がる愛知県東部の三河地域。鈴木化学工業

愛知の中小車部品メーカー

車「一本足」のリスク分散

所の本社工場（愛知県幸田町）では射出成形機が稼働する音が響く。ブレーキオイルや冷却水のタンクなど機能部品を製造する中、生産ラインの一角で作っていたのはお茶をいれる樹脂製の「急須」だ。「10年耐えられる部品の製造技術でつくった」（小幡和史社長）という「十年急須」。

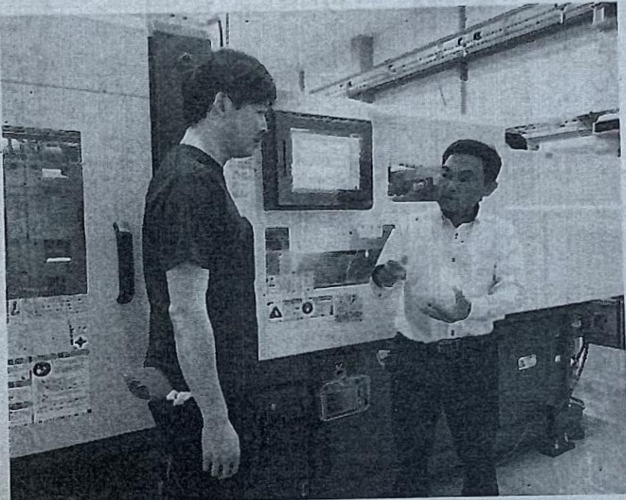
2020年6月、新型コロナウイルスが猛威を振るう中で企画した。当時、自動車メーカーの減産が影響し、20

年4〜6月期の売上高が計画比3割ダウン。自動車しか足場がないことに危機感を覚えた（同）として、売

革すると決意し、まずは自動車以外の自社開発製品の売上高を全体の1割に引き上げる目標を定めた。

上高のほぼすべてを占める一本足の構造を改作するか。クラウドフ

強みを生かし、何を



鈴木化学工業所は自動車の機能部品をつくる生産ラインで急須を製造（右は小幡社長）

鈴木化学工業所

キクチエンジ

10年耐久 樹脂製の急須 キャンプ道具 日本一へ

アンディング（CF）を獲得した。でこうした挑戦を支援するマクアケ名古屋拠点（名古屋市中村区）によると、東海地域の企業による月次のCF挑戦数は19年平均と比較して2倍の約1300件ペースで推移しているという。

脚光を浴びたのは愛知県刈谷市で駆動系の金属部品を手がけるキクチエンジニアリングが始めた「ZULUブランド」「ZULU GEAR（スルーギア）」だ。第1弾として展開した金属製のたき火台がCFサイトの「マクアケ」を通じた試験販売で目標の37倍にあたる391台、約1120万円の注文

正木清美社長は「自動車で培った技術があったからこそ、たき火台を作れた。日本一のキャンプ道具ブランドを目指す」と初の自社製品に期待を寄せる。かねて電気自動車（EV）の普及は中小部品メーカーの経営を脅かすリスクだった。しかし、大EV時代の到来は「まだ先のこののが実情だった。自動車生産は一時の落ち込みから回復したが、リスク分散の動きは自動車産業の裾野を支える中小部品メーカーのニューノーマル（新常态）になるかもしれない。